

Title	毛宗崗本『三国志演義』における人物描写の特徴の考察
Sub Title	A study of character descriptions in Mao Zonggang's edition of "Sanguozhi yanyi"
Author	鵜浦, 恵(Unoura, Megumi)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2023
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2022.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>本年度は、毛宗崗本『三国志演義』の人物の中で、まず蜀の人物について調査を実施し、毛宗崗本の底本となる『李卓吾先生批評三国志』と本文の比較をしながら毛宗崗の評価が人物描写にどのような変化をもたらしているか、特に、元々の主君を「裏切る」形で劉備に蜀を献上しようとした張松、法正たちや、関羽を裏切った孟達と糜芳に着目して考察した。その結果、計画の途中で処刑され劉備に仕えることになかった張松、最後まで劉備や諸葛亮に尽力した法正、そして最終的に劉備を裏切ることになる孟達と彭蒙というように、それぞれの人物の「裏切り」前後の経緯によって毛宗崗の評価にも違いが生まれていることや、同じ関羽への「裏切り」であっても、孟達と糜芳ではやはりそれぞれの経緯の違いから明らかに評価に差がついていることがわかり、毛宗崗は一人ひとりに対して非常に丁寧に評価を定め、その評価に基づいて文章に細やかな改変を加えていることを改めて指摘できた。これらの研究成果は2022年7月の慶應義塾中国文学会第7回大会において発表し、また、その発表内容を基に「毛宗崗本『三国志演義』の人物評価——蜀における「裏切り」の描写から——」(『慶應義塾中国文学会報』第7号、2023年4月刊行予定)を執筆した。</p> <p>次に、『三国志演義』における呉の人物について、上記の研究と同じように毛宗崗の評価を整理し、魏との関わりという視点から赤壁の戦いの「苦肉の計」に関わる人物及び張昭に焦点を当て、その評価の特徴を考察した。赤壁の戦いにおいて、呉の臣下は魏との開戦派と非開戦派にわかれるが、毛宗崗は「苦肉の計」を成功させて曹操に立ち向かった者たちと、赤壁の戦いでの勝利に何も寄与せず、その後も非戦論者の立場を取った者とで明確に評価を変えており、物語の中でも鮮やかな対比になるように文章を改変していることがわかった。これらの成果をまとめたのが「毛宗崗本『三国志演義』の関心の在り処——呉と魏の関わりと人物評価から——」(『藝文研究』第123号、2022年12月)である。</p> <p>Among the characters in Mao Zonggang's edition of "Sanguozhi yanyi", I investigated the portrayal of Shu and Wu. As a result, I was able to point out that Mao Zonggang carefully evaluated each of them and made detailed changes to the text based on his evaluation.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2022000010-20220229

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	経済学部	職名	専任講師	補助額	300 (A) 千円
	氏名	鵜浦 恵	氏名 (英語)	Megumi Unoura		
研究課題 (日本語)						
毛宗崗本『三国志演義』における人物描写の特徴の考察						
研究課題 (英訳)						
A Study of character descriptions in Mao Zonggang's edition of "Sanguozhi yanyi"						
1. 研究成果実績の概要						
<p>本年度は、毛宗崗本『三国志演義』の人物の中で、まず蜀の人物について調査を実施し、毛宗崗本の底本となる『李卓吾先生批評三国志』と本文の比較をしながら毛宗崗の評価が人物描写にどのような変化をもたらしているか、特に、元々の主君を「裏切る」形で劉備に蜀を献上しようとした張松、法正たちや、関羽を裏切った孟達と糜芳に着目して考察した。その結果、計画の途中で処刑され劉備に仕えることになかった張松、最後まで劉備や諸葛亮に尽力した法正、そして最終的に劉備を裏切ることになる孟達と彭義というように、それぞれの人物の「裏切り」前後の経緯によって毛宗崗の評価にも違いが生まれていることや、同じ関羽への「裏切り」であっても、孟達と糜芳ではやはりそれぞれの経緯の違いから明らかに評価に差がついていることがわかり、毛宗崗は一人ひとりに対して非常に丁寧に評価を定め、その評価に基づいて文章に細やかな改変を加えていることを改めて指摘できた。これらの研究成果は2022年7月の慶應義塾中国文学会第7回大会において発表し、また、その発表内容を基に「毛宗崗本『三国志演義』の人物評価 —蜀における「裏切り」の描写から—」(『慶應義塾中国文学会報』第7号、2023年4月刊行予定)を執筆した。</p> <p>次に、『三国志演義』における呉の人物について、上記の研究と同じように毛宗崗の評価を整理し、魏との関わりという視点から赤壁の戦いの「苦肉の計」に関わる人物及び張昭に焦点を当て、その評価の特徴を考察した。赤壁の戦いにおいて、呉の臣下は魏との開戦派と非開戦派にわかれるが、毛宗崗は「苦肉の計」を成功させて曹操に立ち向かった者たちと、赤壁の戦いでの勝利に何も寄与せず、その後も非戦論者の立場を取った者として明確に評価を変えており、物語の中でも鮮やかな対比になるように文章を改変していることがわかった。これらの成果をまとめたのが「毛宗崗本『三国志演義』の関心の在り処—呉と魏の関わりと人物評価から—」(『藝文研究』第123号、2022年12月)である。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
Among the characters in Mao Zonggang's edition of "Sanguozhi yanyi", I investigated the portrayal of Shu and Wu. As a result, I was able to point out that Mao Zonggang carefully evaluated each of them and made detailed changes to the text based on his evaluation.						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
鵜浦恵	毛宗崗本『三国志演義』の人物評価—蜀の人物を中心に—	慶應義塾中国文学会第7回大会	2022年7月2日			
鵜浦恵	毛宗崗本『三国志演義』の人物評価 —蜀における「裏切り」の描写から—	慶應義塾中国文学会報	2023年4月刊行予定			
鵜浦恵	毛宗崗本『三国志演義』の関心の在り処—呉と魏の関わりと人物評価から—	藝文研究	2022年12月			